

令和 8 年度 愛知県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して英語を使う楽しさを実感し、主体的に英語を学び続ける児童の育成

☒ 言語活動
 ☒ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☒ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☒ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① R6全国学力・学習状況調査の質問調査において、英語の「勉強は好きか」に肯定的に回答する割合が、国語と算数と比較して高い。
(英語：67.1% 国語：55.6% 算数：60.3%)

未だ改善が必要な点

① R6全国学力・学習状況調査の質問調査において、英語の「授業の内容はよく分かるか」に肯定的に回答する割合が、国語と算数と比較して低い。
(英語：76.3% 国語：82.1% 算数：80.8%)

2. 要因分析

① 英語を学ぶことで異文化に触れる機会が増えることや、楽しく学ぶことができる授業づくりを学校で工夫しているため、児童の興味・関心が高まっていると考える。

① 体験的な言語活動を実施できている一方で、「何ができるようになったか」が、児童に見えづらくなっていると考え。小学校においてもコミュニケーションを行う目的や場面、状況等を意識した言語活動を設定し、児童が自己調整を図ることができるように指導した上で、パフォーマンステスト等を適切に位置付けることが必要であると考え。

3. 目標を達成するための施策・事業

① 次期学習指導要領を見据えた英語教育の充実

「愛知県小・中学校教育課程研究集会」にて、文科省協議会を踏まえ、外国語科（英語）の教育課程や学習評価の課題を示し、学習指導要領に基づく効果的な英語教育を推進する。

① 外国語教育担当指導主事会の開催

「愛知県小・中学校教育課程研究集会」を受けて、外国語教育担当指導主事会をR7年度から開催し、愛知県の英語教育の現状とその要因について説明するなどして、授業改善の推進を図る。

① 県作成研修動画活用の推進

オンデマンドで配信している県作成研修動画（言語活動を中心とした実際の授業を編集したもの）を、「言語活動が目指している資質能力を育成する内容になっているか」など授業改善を図るため、各学校の現職教育研修等での活用を促す。

・令和7年度に実施した教員採用選考試験（令和8年度採用）では、小学校教諭受験者のうち、英検準1級などの英語力を有すると認めた受験者を第一次試験で加点対象とした。その結果、一定の英語力を有する小学校新規採用者の増加につながった。今年度実施の教員採用選考試験において、引き続き「小学校英語」の加点項目を設けたり、英語を含めた複数免許状取得者・取得見込み者に加点項目を設けたりして、一定の英語力を有する者の人材確保に努める。

令和 8 年度 愛知県 英語教育改善プラン

目標

言語活動を通して英語によるコミュニケーションに積極的に取り組み、主体的に英語を学び続ける生徒の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R7：54.3%⇒R8：60%）

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☒ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☒ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①中学 3 年生でCEFR A1相当以上の英語力を有している生徒の割合が、5 割に到達した。
(R6全国52.4%、愛知県 R6:51.9%→R7:54.3%)

未だ改善が必要な点

①R5全国学力・学習状況調査の質問調査の「英語の勉強は好きか」に肯定的に回答する割合が、小学校から中学校で大きく減少。
(小:68.2%→中:49.8%)
②学習用デジタル教科書を用いた学習活動が100%でない。
(R7 98.3%)

2. 要因分析

①各地域の代表者が集まる「愛知県小・中学校教育課程研究集会」等で、文部科学省のCEFRレベルと紐づけられたCBT問題の活用方法とともに、CEFR A1相当の英語力について伝えることで、教師による、客観的な生徒の英語力の把握が進んだ。

①国語、算数・数学の減少幅と比べると、外国語はその減少幅が格段に大きく、早い段階から英語に触れる、慣れる、使う機会が必要であると考えられる。
②英語の授業における学習者用デジタル教科書の良さや効果的な活用方法の周知が進んでいないことが原因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①授業改善の推進

県作成研修動画（言語活動を中心とした実際の授業を編集したもの）をオンデマンドで配信し、各学校の現職教育研修等において、活用を促すことで授業改善を図る。さらには同動画を小中連携の題材として活用するように周知する。

①英語教育担当指導主事会（10月実施予定）

各地域の英語教育担当の指導主事を対象に、愛知県の英語教育の状況等を紹介するなどして、授業改善の推進を図る。

①小・中・高を通したシームレスな英語教育の推進

高校も含めた 3 校種が連携した英語教育を推進する必要がある。令和 5 年度より実施している「あいちリーディングスクール事業」の地区別授業研修により小中高連携を図り、10 年間を見通した英語教育を目指す。

・イングリッシュデイキャンプ（対象 小1～小4）

県立中生徒と共に楽しく英語に触れられるアクティビティを経験する。

・イングリッシュキャンプ（対象 小6～高3）

ALTと共にオールイングリッシュで一泊二日の共同生活を送る。

②次期学習指導要領を見据えた英語教育の充実

「愛知県小・中学校教育課程研究集会」にて、文科省協議会を踏まえ、外国語科（英語）の教育課程や学習評価の課題を示し、学習指導要領に基づく効果的な英語教育を推進する。

令和 8 年度 愛知県 英語教育改善プラン

グローバル社会で活躍できる力の育成

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 47.7%、B1以上 21.0% ⇒R8 : A2以上 50.0%、B1以上 25.0%)

目標

- ☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☒ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☒ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2レベル相当の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合について、昨年からわずかに増加した。
(R6:46.6%⇒R7:47.7%)

②CEFR B1レベル相当の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合について、昨年から増加した。
(R6:17.9%⇒R7:21.0%)

① 英語担当教師が授業における発話の半分以上を英語で行っている学校の割合について、昨年から大きく減少した。
(R6:25.8%⇒R7:16.8%)
特に論理・表現 I の授業において、授業中の発話の半分以上を英語で行っている英語担当教師の割合が低い。
(R6:19.7%⇒R7:10.5%)

2. 要因分析

①令和 5 年度より実施している「あいちリーディングスクール事業」によって、授業改善及び指導と評価の一体化が進み、生徒の英語力が伸長したと考えられる。

②グローバルに活躍することが期待される層の育成に資する学校の取組を他の学校に紹介することで、授業改善及び指導と評価の一体化が進み、生徒の英語力が伸長したと考えられる。

① 言語使用における英語の正しさを強調するあまり、知識・理解の定着に重きを置いた日本語を中心とした授業が行われ、結果として、英語担当教師の英語使用が減ったと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「あいちリーディングスクール事業」の一層の推進
「あいちリーディングスクール事業」において、専門学科等を有する学校を新たに事業指定校に加えるとともに、異校種の学校で行う研修への積極的な参加を促す。こうした取組をととして校種間の連携を推進し、授業改善及び指導と評価の一体化をさらに進めることで、英語教育の裾野を広げ、本県全体の英語力の一層の向上を目指す。

②イングリッシュフォーラムの活用
各校の代表生徒が英語で自校の取組成果を発表するイングリッシュフォーラムにおいて、グローバルに活躍することが期待される層の生徒を含め、生徒一人ひとりが互いに刺激を与え合う場とすることで学習意欲を高め、より高度な英語習得へとつなげていく。

① 英語によるコミュニケーション活動の推進
生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とするよう伝えていく。具体的には、「あいちリーディングスクール事業」の研究推進校が主催する協議会等を通じて、効果的な言語活動の具体例を他校へ共有し、授業改善を促進する取組を進める。あわせて、言語活動において、A I を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。また、愛知県高等学校教育課程課題研究で作成した教材や、コミュニケーション活動の導入方法・実践状況を示す動画を多くの学校に紹介することで、授業改善の実効性を高めていく。
(参考URL : <https://apec.aichi-c.ed.jp/cms/page-3261/page-4136.html>)

愛知県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	46.1	50	46.6	50	47.7	50		50	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	18.3	25	17.9	25	21.0	25		25	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		50	37.8	50	35.2	50		50		50	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		40	37.8	40	37.6	40		40		40	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	94.3	100		100		100		100	
		公表（％）	50	39.2	50		50		50		50	
		達成状況の把握（％）	60	53.4	60		60		60		60	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70	77.4	80	76.7	80	79.1	80		80	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		50	25.4	50	25.8	50	16.8	50		50	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	35.6	50	51.9	55	54.3	60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		90	54.5	90		90		90		90	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合（％）		90	66.2	90		90		90		90	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	88.3	100		100		100		100	
		公表（％）	80	53.5	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	80	69.2	80		80		80		80	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	36.5	40	36.8	40	54.3	55		55	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合（％）		90	43.4	50		50		50		50	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	72.3	100		100		700		100	
		公表（％）	80	38.6	80		80		80		80	
		達成状況の把握（％）	80	59.8	80		80		80		80	